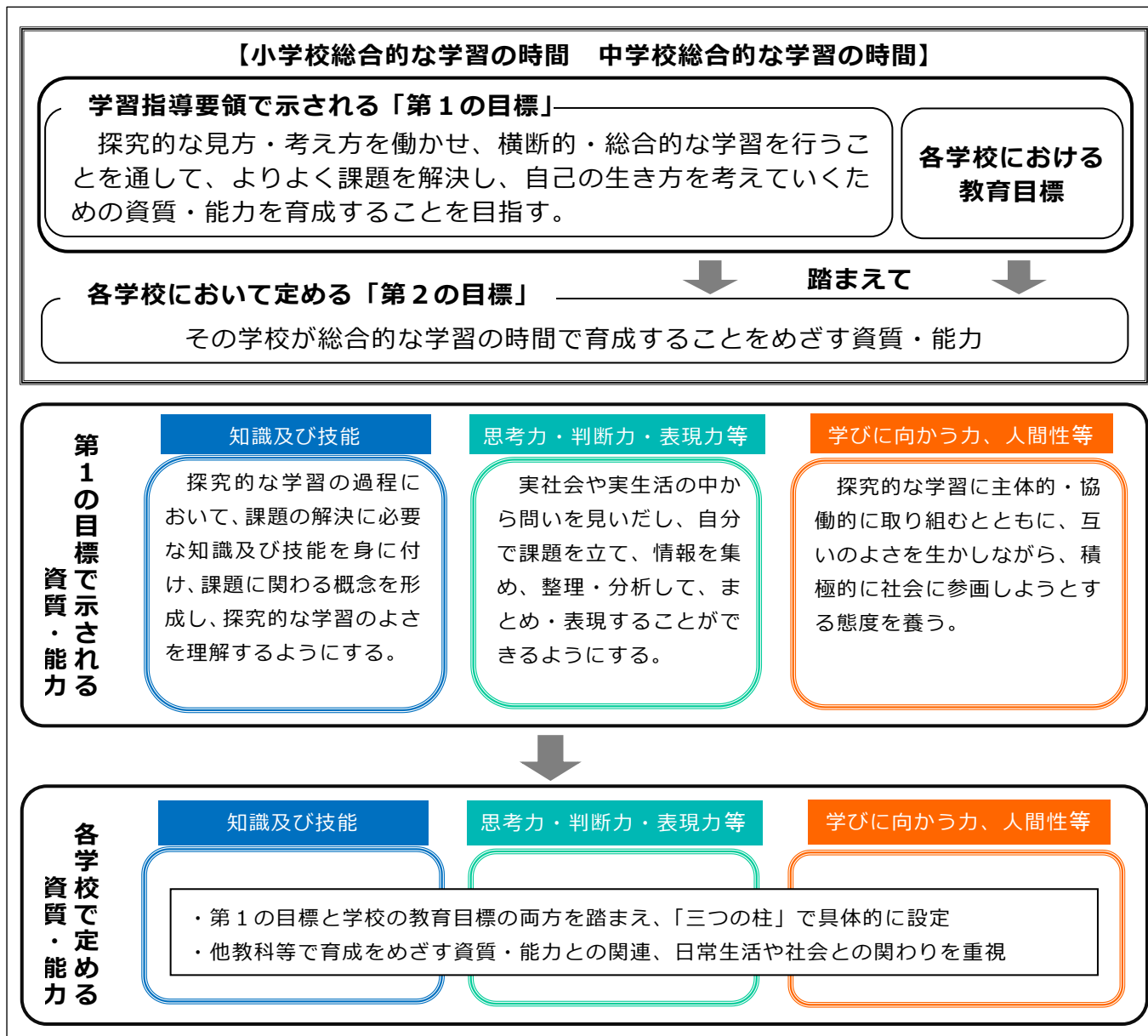


(4) 総合的な学習の時間

育成をめざす資質・能力 ～何ができるようになるか～

総合的な学習の時間においては、探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成します。



★目標の改善

従来は、どのような知識を身に付けることが必要かということについては、具体的に示されていませんでした。今回の改訂では、育成することをめざす資質・能力については、他教科等と同様に、総則に示された「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」という三つの柱から明示されました。

具体的な教育内容の改善・充実 ～何を学ぶか～

★内容の改善・充実

学習内容は、第1の目標を踏まえ、各学校で定めることが示されています。また、学習活動においては、考えるための技法や情報機器や情報通信ネットワークなどの活用が求められています。

○各学校において定める二つの内容

今回の改訂では、内容として「目標を実現するにふさわしい探究課題」と「探究課題の解決を通して育成をめざす具体的な資質・能力」の二つを学校で設定することが求められます。

○「考えるための技法」の活用

他者と協働した学習活動、言語による分析・まとめる学習活動を行う際に、比較、分類、関連付け等、考えるために必要な情報処理の方法を「技法」として学ばせ、活用させていくことが求められます。

○情報機器や情報通信ネットワークの活用

探究的な学習の過程において、コンピュータやインターネット（小学校はプログラミングを体験することを含む）などを適切かつ効果的に活用することによって、より深い学びにつながるという視点が求められます。

☞ 解説 小学校総合的な学習の時間編 p.8、p.50～54 中学校総合的な学習の時間編 p.8、p.48～53

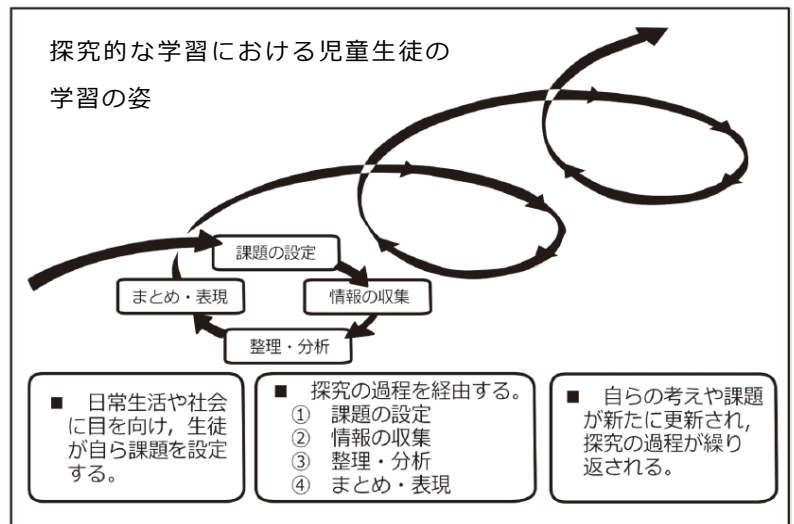
主体的・対話的で深い学び ～どのように学ぶか～

総合的な学習の時間では、「探究的な学習の過程」を大切にします。深い学びの実現には、「学習過程を探究的にすること」「他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること」の2点を重視して、児童生徒の学習の姿を考えることが必要です。

探究的な学習においては、

- ①課題の設定 ②情報の収集
- ③整理・分析 ④まとめ・表現

の過程を固定的に捉える必要はありません。物事の本質を探って見極めようとするとき、活動の順序が入れ替わったり、ある活動が重点的に行われたりすることも考えられます。



☞ 解説 小学校総合的な学習の時間編 p.9～11 中学校総合的な学習の時間編 p.9～11